

信州デジタルマップに見る  
webサイト型地域メディアの課題

taaa

# はじめに

これまでに信州デジタルマップを扱う講義を複数受講する中で、信州デジタルマップやwebサイト型地域メディアが抱えている課題に気づく場面があった。

それをもとに、私が考えるwebサイト型地域メディアの持つ課題について主に指摘し、その改善策について考える。

また、webサイト型地域メディアがより活用されるようになるための策を、あくまで一アイデアというかたちで提案する。

# 目次

課題 1 : 認知度について

課題 2 : 運営費や持続性・継続性の確保について

課題 3 : サイトの機能について

アイデア : 記事評価機能

# 課題 1 : 認知度について



地域メディアは本来地域の人々に広く活用されることが望ましいが、「地域メディア」という言葉自体、いまだ認知度が高いとはいえずらい状況にある。少なくとも私は講義以外で聞いた覚えがない。

そのため、地域メディアの利用者を増やすにあたっての第一の課題は、その存在を知ってもらうことである。

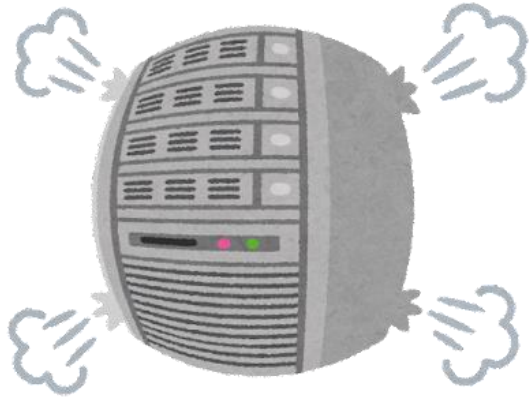
信州上田デジタルマップを例に、上記の課題の改善策を考える。

まず、上田市の学校で地域探求活動の際に資料の一つとして紹介・利用することで、地域メディアの存在について知ってもらう。現在では教育現場にもタブレットが導入されており、ネットを活用した調べ学習も行いやすいため、信州上田デジタルマップは情報源の候補となりうる。



また、記事の多様さを生かし一日一記事ずつ継続的にSNSで紹介したり、アナリティクスからサイトの利用状況を調査したりなど、様々な角度から認知度向上のための活動を行うのがよい。

## 課題 2：運営費や持続性・継続性の確保について



webサイト型地域メディアが一個人によって運営されている場合、運営費や持続性・継続性についての不安がつきまとう。

webサイトである以上、サーバーやドメイン等の維持費をはじめとする運営費がかかるし、管理している人物が何らかの理由で長期にわたってサイトのメンテナンスを行えなくなってしまうと、webサイト凍結・データ削除という最悪の結果を招く可能性がある。

これらの課題の改善策として、まず運営費の面では、地域の店舗の宣伝の記事を掲載して報酬を受け取ったり、その他地域に関する広告をサイト内に掲示して広告費を賄うという方法が考えられる。

また、持続性・継続性の面では、協力者やその地方の自治体などと連携し、サイト運営に関しての取り決めを万が一に備えてしておくことが重要であると考えられる。

## 課題3：サイトの機能について

キーワード

上田市(548) 歴史(413) 自然(200) 上田(200)

海野町商店街(90) 人物(86) 上田城(85) 温泉(84)

上田デジタルマップ

上田市

検索 全部みる

登録リスト (該当: 1332件)

この課題は信州上田デジタルマップに限ったものであるが、記事に設定できるハッシュタグ（キーワード）について、個人が手打ちで記事にタグを設定する仕様のため、現状似たような別のタグが複数存在している。(ex:長野県/長野/長野市、上田市/上田/#上田)

このように類似したタグが複数存在すると検索結果も分散しタグの意味が薄れてしまうので、例えばタグを入力する際に既に存在するタグをサジェストするなどの入力補助を行う、似たようなタグをサイト側で統合し同じものとして扱うなどの工夫が必要だと考える。

上田デジタルマップ

上田

検索 全部みる

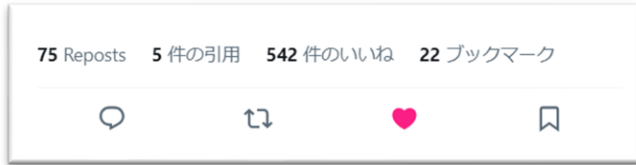
登録リスト (該当: 2529件)

また、実際にタグ経由で記事を絞り込んでみると、タグ「上田市」の記事が548件であるのに対し該当記事は1332件、タグ「上田」の記事が200件であるのに対し該当記事は2529件であり、このことから推測するに、タグに関係なく、記事中に「上田市」「上田」の文字があるものをすべて表示しているようである。

せっかく記事にタグが設定できるのだから、指定タグがつけられている記事のみを検索結果に表示した方がより利便性が高いと感じる。

# アイデア：記事評価機能

webサイト型地域メディアがより活用されるようにするために、記事評価機能の実装を提案する。



「いいね」を通じて高い評価を受けたいという人々の心理と、webサイト型地域メディアの持つ「誰でも記事を投稿できる」という特性を利用し、質の高い記事であるほどよりよい評価がもらえるという環境を構築することで、投稿される記事の量も質も高まる。



また、信州デジタルマップを例に挙げると、新着順でしか記事を探すことができないため、玉石混交の記事の中から特に読みやすく面白いものを見つけ出すのが現状では困難である。

こういった場面についても、記事評価機能をさらに活用した、記事の評価順ソート機能の実装が効果的であると考えられる。多くのユーザーから高い評価を受けた選りすぐりの記事をすぐに読むことができるため、記事そのものへの単純な興味からサイトを訪れる人が増加すると予想される。

# おわりに

地域情報メディア論の最終課題として、これまでの講義から感じた地域メディアの課題について述べ、その改善策を考察した。

また、信州デジタルマップについても考察し、利便性向上のためのアイデアを提案した。

講義を受け、最終課題としてwebサイト型地域メディアの可能性を探ったが、その果たしうる情報発信やアーカイブなどの役割には、現在における知名度よりもはるかに大きいものがあると感じた。